



相手の目線に合わせて穏やかな口調で声掛け

不知火町御領5区 模擬声掛け訓練 いざというときに備えて地域で訓練

11/3 不知火町御領5区(松尾恵介区長)で、模擬声掛け訓練が実施され、区民や消防団など約50人が参加しました。これは、認知症の疑いのある人が行方不明になったときの捜索に備えようと開催したもの。訓練では、2班に分かれて徘徊者役の人を捜索。対象らしき人を発見すると、優しく声掛けを行っていました。松尾区長(68)は「どこでも起こる可能性がある。訓練を続けていきたい」と話しました。



松橋中の生徒から剣道などを習い、武道の奥深さを体験

シンガポールブーンレイ中と交流 日本を深く知ることができた一週間に

11/5~9 シンガポールブーンレイ中の生徒10人らが宇城市を訪れ、市内の中学生と交流しました。これは、生徒たちの国際理解を深めるために毎年実施しているもので11回目。夏休みには市内の中学生がシンガポールを訪問し、その国の文化などを学んでいます。7日には、松橋中で歓迎式が行われ、シンガポールへ派遣された生徒が研修の成果を英語で発表するなど理解を深め合っていました。



九州・沖縄の魅力を発信する九州探検隊

県内3例目 博多大丸「九州探検隊」をアンバサダーに認定 宇城市の隠れた魅力を発掘

11/7 九州の知られざる特産品や文化などを発掘する株式会社博多大丸(福岡県福岡市)の九州探検隊を、市が情報発信アンバサダーに認定しました。式に臨んだ守田憲史市長は「同隊の情報発信力に期待している。当市の豊富な特産品などを共にアピールしていきたい」と期待を示し、高田徹取締役は「全館催事やラジオ、広告で宣伝していく。タッグを組み九州の良さを伝えたい」とあいさつしました。



防災学習の成果を披露しました

松橋支援学校 キラッと smile 未来につなげ! きらり祭 みんなが笑顔に

11/9 松橋支援学校できらり祭が開かれ、約400人が訪れました。地域との交流の場として毎年開かれているもので、この日は氷川分教室の生徒たちも参加し、児童生徒132人が日頃の学習成果を発表。防災学習やあいさつ運動、友達のすてきな姿などを劇で伝えました。生徒会会長の牛崎翔馬さん(高校3年生)は「練習を積み重ねることで、自信を持って発表することができた」と笑顔を見せました。

宇城市戦没者追悼式 平和への誓い 新たに――

10/26 ウイングまつばせで戦没者追悼式が開かれ、第二次世界大戦の遺族ら約350人が参加しました。市と市遺族連合会(石山勝也会長)の共催。戦没者を追悼し、平和を祈念するために毎年開かれています。

式典では石山会長(75)が「戦争を知る世代が減る中、今後も戦争の悲惨さや平和の大切さを次世代に伝えていくことが大切」とあいさつ。参加者全員で白菊を献花しました。



松橋中吹奏楽団による追悼演奏

三角町馬場区 馬場生活塾 共に学び 共にふるさとに暮らす

10/30 三角町の馬場公民館で馬場生活塾が開かれました。これは、地域活性化や文化の薫り高い郷土づくりを目指し始められたもの。この日は、元農協職員として三角町の農業生産の向上に大きく貢献した橋本裕信さん(69)が、高齢になっても地域ぐるみで農業を続けるための集落共存社会の構築などについて講演。参加者からは「後継者問題を解決していきたい」などの意見が聞かれました。



住みよい地区を目指す馬場生活塾のメンバー

くまもと☆農家ハンターがジビエファームを建設 捕獲したイノシシを有効活用

10/30 三角町でイノシシの処理加工場の落成式があり、小野泰輔副知事や守田憲史市長など約100人が完成を祝いました。これは、獣害対策をボランティアで行うくまもと☆農家ハンターが国のジビエ増進モデル事業を活用し開設した施設で、検査や解体などの部屋を分け衛生面を確保。年間1,000頭の解体を見込み、今後は国際的な食品衛生管理基準 HACCP や国産ジビエ認証の取得を目指します。



青空の下、笑顔のテープカット

宇城市民文化祭 日頃の頑張りを見せるとき

11/2~4 ウイングまつばせでステージや展示、講演会などが行われました。ステージでは日頃から磨き上げてきた演技が披露され、観客から拍手が沸き起こっていました。太極拳を披露した不知火小3年の片山弘望さんは「練習通りにできてよかった」と話し、中学の同窓生9人でカラオケを披露した松橋町の濱田國多佳さん(84)は「アンコールの声が飛んできてうれしかった」と喜んでいました。



ゆっくりと全身を使う太極拳